

令和7年度第1回木津川市文化財保存活用地域計画協議会 議事録抄録

- 日 時 令和7年5月26日（月）14時00分～16時15分
- 場 所 木津川市役所5階 第1・第2委員会室
- 出席者 委 員：伊東史朗（会長）、増井正哉（副会長）、
茅早祥一、石崎善久、高橋克壽、川口直康、勝山享
(欠席委員 中野泰倫、源城政好)
事務局：竹本教育長（挨拶まで）、平井教育部長、
【文化財保護課】松井課長、八田総括専門官、大坪係長、
(以下、事務局紹介まで) 永澤課長補佐、北畠主事

- 1 開会
- 2 委嘱書交付
- 3 教育長挨拶
- 4 委員紹介（自己紹介）
- 5 事務局員紹介
- 6 木津川市文化財保存活用地域計画協議会について
※事務局から、本協議会条例に基づく所掌事項等を説明。
- 7 会長、副会長の選出
※会長を伊東委員、副会長を増井委員とすることを決定。
- 8 議事
 - ・木津川市文化財保存活用地域計画協議会の運営について
※事務局から、協議会の役割、府内他市の状況、令和5・6年度の取組実績及び令和7年度の主な計画、今後の課題などの説明。
(質疑応答) ⇒ : 委員 → : 事務局 (意見) • ○○～
⇒本地域計画を立てたからこそできたもの、無くとも通常どおりできたものがあると思うが、計画ができたことによる特筆的なものをお示し願いたい。
→直接的ではないが、「史跡恭仁宮跡（山城国分寺跡）保存活用計画」を策定し、府とともに取り組みを進められたのは計画に基づいたもの、また、地域総がかりの取組検討を進める中で、行政として市登録文化財制度の検討に着手できたのは、本計画ができたからこそと考える。ただし、いずれも行政主体であり、市民や愛護団体からの計画策定委員としての参画などはあるが、実行委員会の創設など、本協議会に対する報告事項までには至っておらず、不十分であったと考えている。
⇒市登録文化財制度は、既に決定したのか。
→文化財保護審議会で提案し方向性は了承いただいたが、具体的な手続きはこれからである。

⇒府内でも登録制度を採用しているところと、していないところがあり、他市等の実情などは確認しているか。

→検討に至っていないところが多かった。福知山市が早くから同様の制度を設けられ、40件以上の登録、補助金交付の実績がある。

- ・登録制度の課題等がでてきているかなどの実態を把握し、対応されたい。

⇒指定があるなかで、登録の位置付けはどのようにされるのか。

→まだ、次回の文化財審議会への提案検討といった段階であるが、「指定には至らないが重要なもの・意義のあるもの」や、「指定ではないが、京都府も含め行政として保護措置の実績のあるもの」などを想定している。

⇒先の事務局説明は、これまでの文化財行政の実績等の説明で、なかなか具体的な動きに至らなかったことは理解するが本計画に即したものとはいいくらい。

本計画策定経過において指定・未指定の枠を超えて地域の大変なものを拾い上げるため、その視点として恭仁宮の都や木津川の水環境などのストーリーを付け、いままでは重要視されていなかったが実は大事なものであったというようなことをやろうという趣旨だったと思う。そういう部分が次年度以降の施策にも必要で、地域ごとにストーリーを創ることなども検討願いたい。地域の方々にも、そのバックグラウンドとともに新しい見方・視点で説明するのも重要な広報の目的ではないか。それは文化財だけではなくて市政全体に関わるものだと思う。愛護団体も厳しい状況にある中、さらなる動きを求めるこことなりかねないので、既存事業の支援に加え新たな視点で地域を発掘・地域組織を取り上げていくようなことを、活発な観光事業などを核にした縦糸で取り組めないか。ストーリーで言えば、残念石の件も地域で大事にされ木津川市ならではの一つの例である。

→ご意見のとおりで、結局、目立った動きができなかった現状の結果をご報告する形となった。そこで、これではだめで、このような動きをしてはどうかというご指摘やご意見をいただく場と考えているので、よろしくお願ひしたい。

- ・もう少しストーリーに合わせて重点地区なり重点的に進めることを計画で宣言するべきであったと思うが、この計画では実行マニュアルとしては弱い。実行委員会を組織するのならば、シンボル的なものを定めて示さないといけないと思う。
- ・文化財を発掘し研究が済んで埋め戻すのか世に出すのかの結論を、終わってから時間をかけて考えるようでは遅いと思う。走りながら手を打たなければいけない。また、トイレや交通アクセスなどのインフラ整備は遅れている。ボランティアガイドのマンパワーも不足・高齢化しており、動機付けや仕組みづくりを考えなければならないと考える。行政は縦割り組織で、それぞれ動かされているが横串の他部署連携をいただきたい。本計画で問題点を指摘いただくのはいいが、指摘したら早期に問題解決に着手いただくようお願いする。
- ・少し構造的な課題があると思う。計画を策定され実行委員会を組織する形であるが、

実行委員会の役割は何で、担い手は確保できているのか。何らかのアクションを起こしていくためのプランを作り動かしていくということだが、担い手は愛護団体なのかな新たな方々が入ってくる形とするのか、そのあたりがなければ実行委員会を組織しても全く機能しない課題があるのではないか。恐らく事務局の文化財保護課だけでは難しいと思われる所以、庁内で仕組みづくりを協議されることからスタートされてはどうかと思う。

・本計画はイメージや構想ではなく、本来はアクションプランでなければいけなかつたのではないか。策定した市が実行する中核になりスタートするので、どこまでできるかを考えながら強弱をつけて作るのだが、それが見えない。実行委員会は、ある程度市を中心にならないと一貫性がない。本来は、やるべき具体的な内容を示すべきで、地域計画が膨大な一覧みたいになってしまっていると思う。恭仁宮や上狛周辺の環境などは面白いイメージができることがあるのではないかと思う。

⇒確かに総花的なところはあるが、本日の説明は地域計画に対応しているわけではない。これが必要だという主張が今後の課題である。特に、私が本地域計画に不足していると思うものは防災である。自然災害時の緊急避難的な文化財保存施設がない。市にとって重要な部分の強弱を整理する必要があるのではないか。本日は報告と今後の課題ということでよいか。

→現状と認識する課題の報告、今後どういう取組みが必要で、どういう組織を創っていくかという議論や意見をいただきたいとの思いである。

⇒予算も必要となる。

→体制づくりと予算の確保に向けた取組みが必要と考える。

・恐らく、市の文化財に関する予算は限られたものであると思われる。そこで考えられるのは国の補助金などを確保することで、そのための計画があると思う。そういうことを目指していくのかどうか。そうすると、補助金等を確保するための中身を詰めていかないといけない。もう一つの可能性とすれば、ふるさと納税など市民や周辺の方々から支援を得て、文化財を守っていく意思を示すための方向性もあると思う。そういう目標を掲げ、いつまでに形を作っていくのかということを、まずは目指してはどうか。京都府も文化財保護のための補助金があるが頭打ちのところもあり、なかなか寄付が集まらない課題があるので、恐らく文化財に対する意識は一般の方には乏しいということと、国の補助金もあるので自分たちで支えるものではないという認識もあるのではないか。そういうことを呼びかけるのも大事なポイントではないかと思う。

⇒市登録制度を設けても補助金はあるのか。それによって考え方は変わってくるのではないか。

→市登録制度においては、指定に準じて補助金対象としていきたいと考えている。他市で国庫補助金を確保されているケースもあるが、既存事業の組み合わせなどで

は補助対象とはならない。啓発や人材育成などは本計画に基づく大事な取り組みで、それらで検討できないかとも思うが活動母体の課題などもあり課題解決に向けた助言等をいただければと思う。

・修学旅行生を集客の課題として入れ込むことはできないか。例えば過日、浄瑠璃寺に修学旅行生が訪問しているのを見たが、いわば自由に散策している印象であった。貴重な文化財であり要所で説明があることで感銘を受けていただき、時を経てリピートいただけることもあるのではないか。その時の添乗員もそこまでは意識されていないようで、次は宇治方面へ向かうとのことだったので、恐らく京都市内の混雑等も踏まえ南部方面へ降りてきているような印象も受けた。

⇒「ふるさとミュージアム山城」は本計画で見えてこないが、市の方針などはどうなのか。

・当該施設は市の施設ではないので、市からの要望等は書けないものと考える。

⇒地域で博物館等を造ろうとしないのであれば、なおさら連携強化等が示されてもよいのではないかと思う。あの施設は変わらずあり続けるのか。

・行政的な動きとしては、いろいろと変わることもあり得る。

・当該施設も満杯状態であると思われる。

⇒本日は何かまとめる必要があるか。報告を受けたとして留めてよいか。

→事務局としては、この間の取り組みに係る現状と課題認識の報告、それに対する今後必要な取り組みや体制づくりへの意見等をいただければという思いである。

⇒本日の意見等を書き込んだ改訂版としていくのか。

→アクションプランのような年次計画的で具体的なものを考えていきたい。

⇒協議会の開催予定は。

→本日の意見を参考に体制づくり等に着手し、その体制のもと次年度以降の事業計画が立案されれば、それに対する意見等をいただく場として年明けあたりに開催できればと考えている。

⇒本日の意見等を取り入れ、次の会議に諮ることになるか。

→本日の意見等をもとに、それに取り組むにはどういう連携や体制で進めるかを市の文化財保護課が主となり、今年度中に立案までいければと考える。

⇒そう簡単にはできない話であろうと思う。また、本日の説明のような実績ではなく課題が大事かと思う。

→現状の共有が必要と考えた上で説明とさせていただいた。大事なのは課題で、それにどう向き合い取り組んでいくかが肝心であると考えている。

・次回は、より前向きな資料をお願いする。

⇒本日説明いただいた実績は基本的には方向性に沿った取り組みで、継続して取り組むもので、そこにストーリーなどが加わってくるという理解でよいか。

→はい。2年が経過したが第1回目の協議会であり、実際に計画に沿った特筆する取

り組みはできていない。

→今後の取り組みの方向性で、どこかのストーリーに加えていく、重点地域を進めるとしていくようなイメージか。

→はい。

⇒PDCA サイクルのプランニングはあって、Do がまだできていない。本協議会はチェックの場なので、チェックのしようが無いという理解でよいか。

→そうともとれるが、具体的に動き出すにあたり、今後の方向性の意見等をいただきたいという思いである。

⇒この場で議論すべきストーリーや地域計画の具体的案があれば提示いただきたい。この地域計画の中で、優先して行う事業や、協力団体の候補などがあれば、具体的検討ができると思う。

⇒地域計画で行うアクションプランは、最初から一つと選ぶ必要はなく、優先順位があつてよいと思うが、この優先順位はこの協議会で決めるものではなく、市民の意向が優先されると思う。地域の方は色々大事だと思う文化や行事をお持ちだと思う。そういうことも含め、教育委員会の限られた人数ではなく市政全体の戦略の中で本計画をどう活かしていくか、もっと上位計画で活かしていくこともある。市長部局からそのような働きかけはないか。

・最上位に市総合計画があり、文化財を活用したまちづくりも掲げている。限られた予算のなか優先度などを判断し、まちづくりを進めてきた。ボランティア団体等でも近年は減少・高齢化しており運営が厳しくなっていると聞いている。どういった支援等ができるかを考える必要があり、「自助」「共助」「公助」の中で地域の皆様と進めないと継続性に欠けると思われる。文化財だけでなく地域の皆様とともにできるなかで進める必要があると考える。

⇒団体等の活性化の話と遺跡をどう整備・見える化していくかというスケールの大きい箱物の話などがばらばらになっているが、それらを市として全体的にどうまとめていくか。例えば、観光インフラの話は教育委員会の話ではなく、そういった文化財愛護や活用の立場からのニーズを拾い上げながら実現していくものができるのかと思う。生活インフラと観光インフラは分離するものではなく、一本の道や便益施設は地域で大事なもので、来訪者にも文化財の保存等にも大事である。市の全体的な部分と文化財の立場のもので合う部分はかなりあると思う。教育委員会も声を上げ、市長部局も拾い上げていただくようなコラボレーションがあまり感じられない。次回は庁内で知恵を集めた形で案を出していただけるとよいかと思う。

→まずは現状と課題の共有が大事との認識であったが、次回以降は具体的な内容に対する審議や意見等をいただけるようなものにしていきたい。

・まずは現状と課題等を報告いただいたということで。

→本日が最初の協議会でもあり、ここからだと考えている。

・本日の意見等も踏まえて、資料は事前配布としていただきたい。

→紙ベースでの事前配布に努めさせていただく。

⇒DMOなど民間の立場で、空き家活用やワークショップなど多様な経験をお持ちかと思うので、民間の意見を聞かせていただければよいかと思う。どうしても文化財だけだと限られた話になってしまふこともある。

→今の時点では具体的なことを申し上げることはできないので、本日の意見を踏まえ、改めて整理してお示しし議論いただければと思う。文化財もまちづくりの一つであり、市としてどうしていくかは大事なところであり、連携がとりづらいところもあるが、例えば教育部で発信し、他の部署との連携、インフラ、地域の活性化など、事務局で案を作成し、事前に、会長・副会長にご提案するなどして対応したいと考えている

【会議結果】

現状と課題等が報告され、次回以降、具体的な内容に対する審議や意見等が交わせるような整理を進める。

・その他

⇒JR奈良線の複線化はどこまで決まっているか。進める方向か。

⇒JR奈良線の複線化は、現在第2期工事が完了し、京都駅ー玉水駅間の複線化が完了している。そこから南は第3期工事であり、これから京都府やJR西日本に要望するということで、沿線市町と連携して進めているところである。市として複線化したい意向はあるが、完成まで長期間とならないよう、沿線市町と取り組んでいきたい。

⇒文化財の保存の面でも残るJR奈良線の拡幅は様々検討する必要があるという認識がある。

⇒もちろんである。費用の面でいうと、第1・2期工事より膨らむ予想である。鉄軌道でないこと、史跡椿井大塚山古墳の上を通っていること、泉大橋が単線であることなど、積算はまだないが、費用は大きなものになるという認識である。

9 その他

※特になし。

10 閉会

→次回委員会については、いただいたご意見の整理、素案の方向付けを行う必要があるので、年明けに開催したい。時期が近づいたら協議会日程の調整をさせていただく。

以上